

調査研究

安全保障に関する調査研究

グローバルなパワーバランスが大きく変化し、政治・経済・軍事等にわたる国家間の競争が顕在化し、ロシアによるウクライナ侵略など、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序への挑戦が続く中、我が国にとって普遍的価値と戦略的利益等を共有する同盟国・同志国等と協力・連携を深めていくことが不可欠です。そのような状況の中で、防衛研究所の果たすべき役割の重要性も増しています。



国外の研究機関との意見交換風景



ブリーフィング風景

防衛研究所は、多様な学問的バックグラウンドを有する文官の研究者と軍事的知見・実務経験を有する自衛官研究者が協力して我が国の安全保障に関する諸問題についての調査研究を行っています。



国外の研究機関との意見交換風景

研究課題

防衛研究所の研究は、現在の日本を取り巻く流動的な戦略環境に対応するよう考慮しており、日本の安全保障に深く関わるテーマとして、例えば、次のような課題に取り組んでいます。

グローバルな安全保障課題

国際的な安全保障環境は複雑さ、厳しさを増しています。そのことは、海洋における自由な航行の妨害、サイバー空間、海洋、宇宙空間、電磁波領域を含むいわゆる新領域における脅威の深刻化、そして認知領域における戦いの展開などにも反映されています。防衛研究所ではこれらのグローバルな安全保障課題への対応に関する調査研究に取り組んでいます。

防衛力の整備・運用・制度等に関する調査研究

防衛戦略、同盟協力、防衛産業、抑止、安全保障法制、国防組織、政軍関係、防衛力の人的基盤などに関する調査研究を実施しています。

地域の安全保障情勢

我が国の主要な安全保障上のパートナーであるインド太平洋の地域諸国を取り巻く戦略環境や我が国の安全保障に重要な影響を及ぼす各国・地域情勢について、外交、経済、内政、軍事を含めた総合的な観点から独自の分析を行っています。その対象は米国、中国、朝鮮半島、ロシア、東南アジア、豪州、南アジアから、中東や欧州、アフリカにまで広がります。

政策シミュレーション

政策シミュレーションとは、仮想的なシナリオを設定し、そうした状況に置かれたときに、自国がどのように対応すべきか、関係国はどのように対応してくるかを議論することで、具体的な政策課題に取り組む際のアイデアを導き出す手法です。特に米国において大きく発展し、国防・外交当局の政策（戦略）策定の現場において広く取り入れられています。



政策支援におけるシミュレーションの活用



国際会議（コネクションズ・ジャパン）におけるシミュレーション展示

特別研究官（政策シミュレーション担当）及び政策シミュレーション室は、防衛研究所が有する高度な専門知識と研究力を活用し、シナリオの作成、参加者間の討議の進行（ファシリテーション）、報告書の作成などを含む、政策シミュレーションの企画・運営を担っています。また、外国研究機関等とも連携し、共同研究を実施するとともに、最新の技法を習得・研究しています。

戦史に関する調査研究

戦史研究センターは、わが国最大の戦史に関わる調査研究部門として、防衛政策や自衛隊の教育訓練のニーズに適切に応えるため、国内外における戦史の調査研究を行っています。

特に、現在、そして将来における国家の安全保障環境や安全保障問題を考察する際の基盤を提供するものとして必要不可欠です。また、過去、相互に影響し合っていた国家間において歴史認識に関する意見交換を行うことは、将来における相互の関係を維持・促進する上で大きな意味を持っており、過去の戦争をめぐる諸外国の歴史認識も重要な研究課題となっています。このため、防衛研究所は現在、歴史研究の活動において国際比較のアプローチを採ることによって、狭い意味での「日本戦史」や「外国戦史」の枠にとらわれずに調査研究の幅を広げるよう尽力しています。



研究会における発表



国外の研究機関との研究交流

研究課題

最新の研究動向、史料をもとに戦史に関わる歴史事実を常に検証し続けるとともに、現在の日本の安全保障政策に歴史的視点から寄与するために、次のような課題に取り組んでいます。

先の大戦に関する戦史の更なる研究

新たに公開された史料、最近の研究成果を生かすとともに、外国の視点も取り入れて、先の大戦に関する戦史を更に研究しています。

戦後日本の安全保障政策史への取り組み

既に歴史となりつつある自衛隊の創設・発展過程を含めた戦後日本の安全保障政策についての調査研究のほか、「オーラル・ヒストリー」を作成しています。

国際紛争史の調査研究

世界各地で生起した国際紛争について、今後の安全保障政策・自衛隊の教育訓練に資する歴史的教訓を提供するために、調査研究を実施しています。

「戦史・戦史史料の編さん」

「戦史叢書」の刊行

先の大戦に関する戦史を編さんした『戦史叢書』は、戦史研究センターの前身である戦史室が、自衛隊の教育又は研究の資とすることを目的に、1966（昭和41）年から1980（昭和55）年にかけて全102巻を刊行したもので、防衛研究所ホームページで閲覧できます。

過去を教訓に、現在に生かす



戦史叢書

「オーラル・ヒストリー」の編集



我が国の戦後安全保障政策に関して、過去の出来事を当事者から聞き取り、記録に留めるという「オーラル・ヒストリー」の編集・刊行に力を入れています。

国際紛争史の編さん



世界各地で生じた国際紛争に関する調査研究の成果を活用して、「フォークランド戦争史」や「湾岸戦争史」を刊行しています。

海外における戦史史料の調査・収集

戦史編さんには、現在明らかであるとされる史実の検証に加え、これまで明らかとなっていない史実の発掘を絶え間なく積み重ねていくことが必要です。特に海外では時間の経過とともに、戦史史料が公開されてくることから必要な戦史史料の調査収集に力を入れ、新たな史実の発見に努めています。